

令和4年度第5回鎌倉市商工業振興計画推進委員会 議事録

- 1 日時
令和4年10月28日（金） 午前10時から11時45分まで
- 2 場所
議会第2委員会室
- 3 出席者
別添「鎌倉市商工業振興計画推進委員会委員名簿」のとおり
- 4 事務局
瀧澤市民防災部次長、田邊商工課長、進士商工課商工担当担当係長、内田商工課勤労者福祉担当担当係長、大隅商工課商工担当（永野市民防災部長は欠席）
- 5 会議の概要
別添「次第」及び次のとおり。

商工課長＝皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。鎌倉市商工業振興計画推進委員会の事務局で商工課の田邊です。よろしくお願ひいたします。

これから先は、着座にて説明させていただきます。

本日、第5回の推進委員会となりますが、任期終了後の初めての委員会になります。改めて委員として委嘱させていただいている方、また新たに委嘱させていただいている方もおられます。ご協力いただき、ありがとうございます。委嘱状は皆様の机上に用意しておりますのでご確認ください。

それでは、ここで委員の皆様の紹介をさせていただきます。

東京富士大学学長で教授の青山委員です。

鎌倉商工会議所副会頭の中村委員です。

中小企業診断士でR Tマネジメント代表の高橋委員です。

株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部長で上席主任研究員の添野委員です。

中小企業診断士の三嶋委員です。

鎌倉市商店街連合会会長の高木委員です。

湘南信用金庫鎌倉営業部次長の加藤委員です。

神奈川県産業労働局産業部企業誘致・国際ビジネス課長の塚本委員です。

市民委員の北原委員です。

市民委員の村上委員です。

以上、10名の委員となります。

よろしくお願ひいたします。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。

市民防災部次長の瀧澤です。

そして私が商工課長の田邊です。

商工担当担当係長の進士です。

勤労者福祉担当担当係長の内田です。

商工担当の大隅です。

以上の5名です。よろしくお願ひいたします。

なお、市民防災部長の永野でございますが、本日は所用により欠席となります。

続きまして、傍聴者についてご報告いたします。

この委員会は鎌倉市商工業振興計画推進委員会条例施行規則第4条の規定によりまして原則公開となっており、特に適当でないと認められる理由がなければ公開にて行うこととされていますが、本日、傍聴を希望される方がいないため、このまま続行いたします。

続きまして、任期終了後初めての委員会ということになりますので委員長及び副委員長を、委員からの互選により決定していただければと思いますが、いかがでしょうか。

〇〇委員＝前回までに引き続き、委員長は青山委員にお願いするのはいかがでしょうか。

商工課長＝ただいま〇〇委員からご提案がありました、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは委員長は青山委員に決定させていただきます。

委員長が選出されましたので、これから先の進行につきましては委員長と交代させていただきます。委員長よろしくお願ひいたします。

委員長＝それでは改めて委員長ということで進行役をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは引き続きまして副委員長の選出を行いたいと思います。先ほど説明がありましたように、副委員長の選出についても委員の互選になっておりますが、いかがでしょうか。私としましては、地元事業者の方に副委員長を務めていただきたいので、鎌倉商工会議所の中村委員に、引き続き、副委員長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、副委員長は中村委員に決定させていただきます。ありがとうございます。

議題1 第3次素案（諮問案）について

委員長＝それではお手元の資料をお開きください。

まず議題1のですね、第3次素案について、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。その際、資料がいろいろありますので、事務局の方で、資料ナンバーと、簡単な資料の説明をしていただきながら進めさせていただきたいと思います。

商工課長＝商工課長の田邊です。それでは鎌倉市商工業振興計画第3次素案について説明いたします。

初めに、8月22日、月曜日に開催しました「第4回鎌倉市商工業振興計画推進委員会」において、委員の皆様から出されたご意見と、その後の対応について、申し上げます。

資料1をご覧ください。

この資料は、8月22日、当日にいただいたご意見と、その後、メール等により9月22日までにいただいたご意見を取りまとめ、回答及び対応を記載し、一覧表にまとめたも

ので、網掛けについては委員会後にいただいたご意見になります。

内容については資料をご覧くださいと思いますが、そのうち、複数の委員からいただいた主なご意見について、説明いたします。

一つ目は、3番委員長、5番〇〇委員、10番〇〇委員及び28番〇〇委員からいただいた計画の視点に関するご意見です。これらの意見については商工業振興計画の構成に関わるご意見と受けとめ、構成の見直しを行いました。具体的には、第2次素案で述べた4つの計画策定の視点を改め、深沢整備事業用地への企業立地や商店街の振興を含むすべての施策を「働くまち」に統合させ、「働くまち」をつくるための視点を、「働く場の確保」、「働く環境の整備」及びコロナ禍において緊急対応を行った「ウィズコロナ、アフターコロナへの対応」の3点に再編しました。

二つ目は、4番〇〇委員、7番〇〇委員からいただいた、商店街にある個店への支援に関するご意見です。本市では、これまで製造業、情報通信業及び自然科学研究所を除く個々の事業者への支援は行っていませんが、コロナ禍における経済的支援の状況を踏まえ、アフターコロナに向けて経営の回復や事業の再構築が可能になるよう、小売業や飲食サービス業など他業種への支援のあり方について検討します。

三つ目は、11番〇〇委員、20番〇〇委員からいただいた、商店会への加入に関するご意見です。商店会の加盟店舗数が年々減少の一途をたどっていることはご承知のとおりですが、なかなか効果的な施策を打てていない現状にあります。そのため、商店会へのアンケートによるご意見の把握や、商店会長との連携により、これまでのハード・ソフト施策の拡充を図る方向で検討を行うとともに、加盟店が商店会加入の恩恵を感じられるようなメリハリのある施策を進めます。

そのほかいただいたご意見については、できる限り第3次素案に反映するよう作業を進めてまいりました。

そのことを含め、今回、提出しました第3次素案につきまして、事務局から概要を説明させますので、忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは以上です。

事務局＝鎌倉市商工業振興計画・第3次素案の概要について申し上げます。

なお、説明については資料2第3次素案（諮問案）見え消し版を使用し、修正を施した部分を中心に、説明いたします。

それでは、初めに4ページ、「1 計画の背景」について申し上げます。8段落目「さらに」から始まるところで、「中小企業等（小規模企業を含む）」とありますが、本市では中小企業の中でも小規模企業が多数を占めることから「等」でくくるだけでなく、小規模企業を追記しました。また、同じ段落に「今後、アフターコロナ」とありますが、現状、アフターコロナには至っていないと判断し、修正しました。

また、大項目2商工業の現状と課題(1)鎌倉市の概況 ア 人口の推移では、人口や世帯数の年間の基準日が10月1日になっていることから、10月1日現在の人口数に変更しました。

次に、5ページをお開きください。2行目の記述については、委員意見を踏まえ、「若年ファミリー層の流出に歯止めをかける」との記載にとどめることとしました。

また、図表を挟んでイ 就業者・通学者では、委員意見を踏まえ、類似市との比較ができるよう、次ページ6ページに「昼夜間人口比率の比較」資料を追加しました。

また、ウ 交通アクセスでは、「鉄道網」の記載に対比させるよう、交通網の記載を「道路網」に修正しました。

次に、8ページをお開きください。オ その他では、委員意見を踏まえ、SDGsを強調するため、標題を変更し、説明を加筆するとともに、鎌倉市SDGs未来都市計画の経済部門の目標とすべきまちの姿として「豊かなライフスタイルが実現するまち」を追記しました。

次に、9ページをお開きください。(2) 市内商工業の概要 ア 事業所では、委員意見を踏まえ、事業所数のカウントの方法について、「〇〇事業所」という記述ではなく、「〇〇所」という記述に統一しました。

次に、11ページをお開きください。イ 従業者では、資料をもとに、本市における失業者の状況について、追記し、13ページに推移を掲載しました。

その下のウ 法人市民税では、法人市民税額及び市税に占める割合の年次ごとの一覧表を追加しました。

次に、14ページをお開きください。大項目3 業種別の現状と課題 (1) 中小企業等では、第72回中小企業等景況調査の概要を記載していましたが、直近の第73回の概要に合わせて、記載内容を修正しました。

次に、15ページをお開きください。(2) 製造業等では、委員意見を踏まえ、経済産業省の工業統計アーカイブズが経済センサス活動調査に移行していることを踏まえ、記載内容を整理しました。

次に、18ページをお開きください。(4) 商店街では、3段落目の「商店街は、」から始まる網掛け部ですが、第2次素案において4つの視点の一つであった「消費と雇用の場となる商店街の振興を図る」に記述していた箇所を、商店街の現状として転記しました。

また、5段落目に、委員意見を踏まえ、神奈川県商店街活性化条例に係る内容を追記しました。

次に、19ページをお開きください。資料の「商店街団体数及び店舗数の推移」の表中に、加盟店舗数及び商店街団体数の数値を追加するほか、さきほど述べた神奈川県商店街活性化条例の内容を囲みに追加しました。

次に、20ページをお開きください。(5) 伝統的工芸品では、鎌倉彫出荷額の表に「* 出荷額には、関連経費（体験教室等）を含む」と注釈をつけました。

次に、21ページをお開きください。大項目4 計画の基本的な考え方には、標題として「(1) 計画の位置づけ」を追記し、4つの視点の記述を削除するとともに、「働くまち推進計画」を副題とする旨の記述を追加しました。なお、これに合わせて、次ページの相関図の差し替えを行いました。

次に、(2)の標題について、委員意見を踏まえ、「(2) 計画の骨子」とし、4つの視点を

3つの視点に変更するとともに、「ア 働く場の確保」として、創業支援、中小企業等の経営支援、次のページに移り企業立地支援及び商店街の活性化の4本の施策の骨子について、従前の記述を参考に改めて記述しました。なお、この箇所に事前送付資料からの変更点があります。22ページ「ア「働く場」の確保」に記載している中小企業等の経営支援、企業立地支援という記載が、事前送付資料では「中小企業の経営安定化」及び「企業立地」となっていますが、訂正漏れですので、ご了承ください。また、4つの視点の一つであった「深沢地域整備事業用地等における企業立地を図る」に記述していた箇所を、「深沢地域整備事業用地における企業立地」として、23ページの囲みに転記しました。

次に、24ページをお開きください。「ア 働く場の確保」と同様に「イ 働く環境の整備」として、就労支援、労働環境の整備及びものづくりの伝承の3本の施策の骨子について、従前の記述を参考に改めて記述しました。

また、囲みにある「鎌倉でテレワーク」の中に、本市が自治体として参加している一般社団法人日本ワーケーション協会やワーケーション自治体協議会について25ページに追記しました。

なお、これらの整理に伴い、25ページから26ページに記載していた「イ 深沢地域整備事業用地等における企業立地を図る」及び「ウ 消費と雇用の場となる商店街の振興を図る」の記述を削除しました。

次に、26ページをお開きください。ウ ウィズコロナ、アフターコロナへの対応では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行政運営に支障を来し、これまで総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき進めてきた「働くまち」をつくるための諸施策についても停滞が余儀なくされたことから、今回のコロナ禍からの回復及びアフターコロナにおける事業展開を常に意識し、向き合うため、ア 働く場の確保及びイ 働く環境の整備の根底に横たわるコロナ禍の状況について記述しました。

次に、27ページをお開きください。(3) 計画期間では、計画の見直しが必要になる状況の具体例として、本計画の前提としている現行の第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画が令和7年度(2025年度)に計画期間を終了することから、見直しの可能性として例示しました。

また、(4) 推進体制では、委員意見を踏まえ、庁内関連各課との連携体制を明記しました。

次に、28ページをお開きください。大項目5 施策及び個別事業では、3つの視点と施策との関係性をわかりやすくするため一覧表にまとめるとともに、施策ごとに記述していた「施策の方向」については、「計画の骨子」において改めて記述し直したため削除しました。また、本計画の個別事業名に鎌倉市の予算体系上の実施計画事業名を付し、予算との関係づけを行いました。

なお、個別事業の事業名及び内容については、第3次素案の策定に当たり、改めて課内で議論し、修正を施しました。

そのうち、35ページをお開きください。(8) ウィズコロナ、アフターコロナへの対応については、施策・事業そのものをBCP(業務継続計画)とすることを記述し、今後、新

型コロナウイルス感染症と同様の感染症が発生したときの羅針盤とすることにしました。

最後に、38 ページをお開きください。

大項目 6 に、前回の当委員会で予告しました主要 KPI・重要業績評価指標を明記しました。以下、順番にご説明いたします。

(1) の創業支援等事業計画に基づく創業件数の年間合計については、現行の創業支援等事業計画の実績数値に加え、新たな創業支援施策により年間 5 件の起業が増えることを見込み、年間 50 件を目標値としました。

(2) 経営発達支援計画における売上高増加事業者数の合計については、商工会議所が進める当該計画の令和 6 年度目標値である 435 社を目標値としました。なお、令和 6 年度の計画年次終了に伴い、新計画の目標値に引き継ぎます。

(3) 企業立地等促進条例に基づく軽減措置件数の実績合計については、これまでの条例の運用実績を踏まえ、年間 3 件ずつの増加を見込み、52 件を計画年次の到達目標値としました。

(4) 商店街加盟店舗数については、現在ある 28 商店会の会員数について、それぞれ最も多かった年度の会員数を合算し、2,491 件を計画年次の到達目標値としました。

(5) 年間観光消費額については、鎌倉市観光基本計画の令和 7 年度目標値である 1,036 億円を目標値としました。なお、令和 7 年度の計画年次終了に伴い、新計画の目標値に引き継ぎます。

(6) 市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合

(7) 仕事と生活のバランスがとれていると感じている市民の割合

(8) 鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合

の 3 本の KPI については、本市企画課が毎年度行っている市民意識調査の項目をもとに指標としています。目標値については、鎌倉市 SDG s 未来都市計画の目標値である 51.0%、56.0%及び 90.0%を、それぞれの目標値としました。

(9) 労働需要調査における市内居住勤労者（正社員、パートタイマー・アルバイト、派遣社員、その他）の割合については、労働需要調査をもとに勤労者の半数を市内居住勤労者が占めることで職住近接が実現できると判断し、50%を計画年次の到達目標値としました。

(10) テレワークスペース設置件数の合計については、年間 1 件ずつの増加を見込み、25 件を計画年次の到達目標値としました。

(11) 伝統鎌倉彫の年間出荷額（関連収入を含む）については、年間出荷額がコロナ前の水準に戻ることができるよう、4 億円を計画年次の到達目標値としました。

最後になりますが、ご意見につきましては、本日を含め、持ち帰っていただく中で、詳細は後ほどご説明いたしますが、11 月 11 日（金）を目途にご意見を頂戴できればと思います。その後、第 3 次素案を諮問案として皆様にお示しするときまでには、計画の体裁を整えて、目次にページを記入するとともに、「7 付属資料」及び「8 策定経過一覧」を作成し、計画に登載したいと考えています。

以上で概要説明を終わります。

委員長＝ありがとうございました。8月22日、前回からご意見いただいた中で、かなり反映している内容になっておりまして、私も読ませていただき、すっきりしたなというのが感想です。最後にKPI、目標値がありますのでこれに向かってかなりイメージが湧いてくるんだろうというふうに思います。

それでは、大項目の1番から6番に沿って、個別に確認していただいていた上で、最後に全体通してのご質問やご意見があれば聞いていきたいと思えます。

大項目1、計画の背景ということで、修正のところは事務局からございましたが、この部分について固めていきたいなと思えます。計画の背景についてはいかがでしょうか。

〇〇委員＝今回修正いただいた「今後、アフターコロナ」という表現で、趣旨はよくわかるんですが、最近すごく、アフターコロナっていつなんだろうと思うんですね。第7波が終わって落ち着いたかと思ったんですが、第8波が来るんじゃないかという予測もある中で、果たしてアフターコロナっていうのはいつ来るのかなって。私も日ごろ、そういった計画とかを見ていて思うので、途中で、アフターコロナという表現のほかにもウィズコロナという表現も出てきております。そこは若干、統一がとれていないなと思うのが1点と、もう私たちは、コロナと共存しなければいけないという時代なのかもしれないと思うと、アフターコロナという表現が果たしていいのかなって、この計画を全部読んでみて改めて思ったので、市の他の計画とか、もしくは違うものでどういう表現をされているのか。もし統一が取れるのであれば、統一してアフターコロナでいくのか、もしくはウィズコロナなのか、もしくはもうちょっと漠とした感じで、新型コロナウイルス感染症の影響っていう表現がいいのか。そういった形で、アフターコロナっていうと本当にいつなるかわからないよってなってしまうようにした方がいいんじゃないかなと、改めてこれを読み直して思ったので、これは意見というか、感想ということで考えております。

委員長＝ありがとうございます。確かに難しいところ。今、第8波が来るとか、来ないかという議論もありますけれども、こここのところはどうでしょうか。ご提案がありましたように、コロナ禍あるいは感染症の影響とかというふうな表現でもいいかもしれません。

併記をするかということもある。

〇〇委員＝この部分については非常に微妙なところがあって、例えば、ここで決めて、実はあそこが最初に決めたんだよっていう可能性もないわけではないと思うんですが、やはりもう少しですね、最終的にどう表現するかというのは、報道だとかいろんなものを見て、もちろん市役所の中でのいうのもあるでしょうけど、それで最終的に決めるというようなことにしないと、なかなか今ここで決めてしまうことは難しいような気がしますね。ただ、表現として中身はともかく、表現としての問題であれば、ギリギリのところまでもっと人の様子を見て決めるということがいいと思えます。

委員長＝これから10年間の事業計画で、現時点での視点に立つというので、少しずつ見直

しをしていく必要もあると思いますけれども。どうでしょう、この表現のところは。

〇〇委員＝今の時点で言えるのであれば、新たな感染症に脅かされる時代みたいな表現になってしまうと思うんですね。何が出てくるかわからないっていうこともありますので。

事務局＝そもそもコロナという表現を使うか使わないかというところに戻ってくる話だと思うのですが、本委員会が2年間休止していた背景には、やはりコロナの影響を受けていて委員会が開催できなかったというところと、あと、その後の商工業振興計画には、ぜひコロナ禍を受けたものを反映させましょうという2つの狙いがあったので、できればコロナという表現は避けて通れないというふうに事務局の方でも感じておりますので、その辺も含めご意見をいただければと思います。

委員長＝ウィズコロナ、アフターコロナというのは、また同時に出てきますのでこういう表現でもいいのかなとは思いますが。両名併記しながら。

〇〇委員＝神奈川県でもこの表現にはすごく気を遣っていて、そうですねアフターコロナ、ウィズコロナ、感染症と、これ1回使うと、全部に、いろんなものに影響出てくると思うんですね。ですのでもっと慎重に考えていただいた方がよろしいかなというのは思ったんです。

委員長＝この計画全体の後も読んでいただくと、「ウィズコロナ、アフターコロナへの対応」ということで3本柱の一つになっていますので、その辺のところと整合性を保ちながら、やっていきたいと思えます。

それでは、2番目の「商工業の現状と課題」ということで、こちらの方はいかがでしょうかこれあくまで数字の話でございますので、表現の方法として、人口が13万人ぐらいに減っていくとかですね、減少傾向にあるという。何か、そこをちょっと表現が違うんじゃないかとかありますか。

〇〇委員＝SDGsの話ですけれども、今回、「働くまち推進計画」という副題をつけるということで、「豊かなライフスタイルが実現するまち」と関連するということで入れていただいているんですが、後ろとどう繋がったかというところもちょっと気になるころはあるんですけれども、もし、これがここに入るんだとすれば、先ほどちょっと言い忘れたのですが、背景のところにSDGsをキーワードとして入れてもいいのかなというふうに思いました。

委員長＝確かに、鎌倉におけるSDGs未来都市を意識した文章を掲げて、計画の背景のところに入れていただけたらいいと思えます。

〇〇委員＝どちらかという計画の背景のところは、割と鎌倉市の現状みたいなのをずっと書かれているんですけど、ちょっとその大きな流れの中での関係性として鎌倉市はSDGsに取り組んでますみたいなことはちょっと触れておいた方が、むしろつながっているかなと思えます。

委員長＝今のところ見ていますと、鎌倉市の商工業の全体像と過去の推移が数字としてはっきりわかってきますので、非常に浮き彫りになってくる感じがします。今回、参考資料というか図表を追加していただいたりして、非常にわかりやすくなっております。

もしなければ3番の「業種別の現状と課題」ということで、それもあわせて見ていた

だいて、2と3がセットになってる3番の方まで、ご意見よろしいですか。

〇〇委員=3番の「業種別の現状と課題」の「(1) 中小企業等」で、2022年度版の中小企業白書ではとあって、「海外への販路開拓を図ることや、脱炭素化、デジタル化などの取組が求められると述べています。」とあり、ここはすごく重要だと思っていて、特に、中小で、コロナ禍にあっても頑張ってる企業は、まさにここを頑張るといふようなことを、報道とかでもよく聞きます。それで、白書にはこう書いてあるんですけども、鎌倉市としての現状と課題ではなくて、白書にこう書いてありますよっていうと、なんとなく他人事といいますか、そんなふう聞こえてしまって、たぶん鎌倉市としても、ここをしっかりとやらなきゃいけないとこなんだろうなっていう認識があるからここに書かれていると思うんですね。とすると、白書ではこう書いてあるけども鎌倉市としてもしっかりと取り組まなきゃいけないと認識してるのか、もしくは、市としてもこういったことが必要と考えていますというように、主語を市として書かれた方がより強くその認識が出るというふうに思いました。

また、この中で脱炭素化、デジタル化、海外への販路拡大は、企業の種別によっても大分変わりますので、余り言えないところがありますけれども、脱炭素化とかデジタル化というのは、これからの企業にとって、特に、避けられなくなってくる部分だと思しますので、その後の取組といいますか、そこにどのように見せていくのかというのが非常に重要です。eコマースの話なども出てきていますので、そういったことを市としても応援する取り組み、脱炭素化は大きな問題ですけども、鎌倉市もゼロカーボンシティとして名乗りを上げていますので、そこに向けてどういったことができるのか、また、これは国とか、県とかと一緒にやっていく話でもあり、連携という書き方もあるかもしれませんが、すごく大きな三つの課題に対して、もう少し前向き感というか、市としての主体性を出された方がよりいいかなと思いました。

委員長=今おっしゃったところは、確かに、より具体的なものがあればと思いますけれど、今回計画の中で、後の方を見ていただくとかなり具体的なものをイメージされている。

ここをあえてもう一つ深掘りして現状の課題のところにも明記するということですか。

〇〇委員=そういうご認識というのがわかればいいかな。取組としてしっかり書かれている部分があるのであれば、それで素晴らしいと思います。現状と課題があって、その後の取組につながる部分だと思しますので、その現状と課題の中に、白書でこう書いてあるからやるんだというよりも、市としてこう認識しているからやるんだというふうに書いたほうがより深まるのかなという視点です。

事務局=ただ今のことにつきましては、市としても当然認識をしております、将来的な方向性として持っています。具体的には経営基盤強化事業補助金のメニュー拡充を考えていて、脱炭素化とか、海外への販路開拓について、使えるようなものにしていきたい。ただ、今は具体的にそこまでできるというものまでは、持っていないところです。

〇〇委員=非常に難しいところだと思いますし、事業のところでは環境とか太陽光とかっていうのがありますので、それでいけるかなと思ったんですが、やっぱりまだ予算の裏づけとか、事業の今後の見込みで、市が主語で書いてしまうと厳しいということであれば、

表現はそこまで強くする必要はないかと思うので、お任せしたいと思います。

事務局＝委員のご意見ですので、ここに「課題として捉えている」という表現を追記して、後段につなげていきます。

委員長＝2番、3番よろしいでしょうか。今回、大分修正をされておりますので、しかも追加をされてますので。ただ個人的には非常にすっきりすっきりしたっていうか、非常にわかりやすく明示されているんじゃないかなと思います。グラフもうまく使ってますね。

中身は非常に深刻な内容ではあるんですけど、現状を正確に捉えた内容になってるんじゃないかなと。

〇〇委員＝溶け込み版の方の12ページに、「本市における失業者の推移」を載せてくださって、10ページのところに、「国勢調査の実施年ごとに把握している本市の失業者の状況については、徐々に改善傾向にあります。」と記載してくださってるんですけども、鎌倉市のだけ見ると確かに改善しているんですが、これは鎌倉市が改善しているのか、日本全体というか、神奈川県として改善してるのかっていうのが、隣に神奈川県だとうですっていうのがあると、なんとなく鎌倉市はどうで神奈川県はどうということが、わかりやすいんじゃないかな。上の表は、鎌倉市と神奈川県を並べて業種別従業者数の比較があるので、その流れで読んできたときに、そのところだけ神奈川県を載せると神奈川県よりも鎌倉の状況が良くないから載せてないのかなっていう、あらぬ疑いを受けるんじゃないかっていう気がします。

委員長＝このところは、鎌倉市だけではないということで、今のご意見で少し加えていただければありがたいです。

〇〇委員＝(1) 中小企業等のところで、日本全体の中小企業の現状と課題が書いてあって、(2) 製造業等から鎌倉市のことが書いてあると思うんですけど、読んでいくと、上のところにちょうど中小企業者の定義で製造業、卸売業、小売業、サービス業の4業者が載っていて、市の方でピックアップしてるのが製造業だけで、卸売業、小売業、サービス業に特に触れていないのですが、あえて製造業に特化して説明するのですか。もし自分がサービス業とか小売りを鎌倉市でやっていたら、製造業の方は市として表現してくれてるんですけど、小売りとかサービス業、卸しがなく、あえて製造業だけなのは、事業者さんからするとどうなんでしょうか。

委員長＝ここはものづくりという視点で書かれてまして、卸し、小売り、サービスのところは、今のところは商店街ということで、卸し、小売り、サービスをあえてここに追加していくか。施策の方に反映してくるときにですね、それを出すことがなんていうか、そうなると、例えば、サービスの中でもITとかいろいろあって、ものすごく複雑になってくる。

〇〇委員＝今、〇〇委員がおっしゃったのは、トピックスとして製造業が出てくるので、確かに違った業種の方がこの計画を見たときに、自分の業種はないのかって思ってしまうことが気になるなっていうところは感じていて、ただ実際には、小売業、卸売業の内容は、ここに盛り込まれているんですけども、たぶん伝え方の部分で、「3 業種別の

現状と課題」という項目になっているので、業種別っていう観点で読んでしまうと、中小企業等のところで工夫して示されているので、この業種別のところをもう少し違った表現にされた方が、すんなり全体の構成が見えるように感じます。ただちょっと何が適してるかっていうところが、今思いつかなかったのですが、たぶん業種別というよりは、商工業のテーマ別ですとか、詳細に見ていったところで今回の5つの項目に分けられていると思うので。17ページの(3)新産業の集積ではいろんな業種が集まっているので、おそらく製造業のところは、前回の皆さんのご意見でもあったように、深沢地域の部分をどうこれから積極的にいくかというところで、製造業というのが一つのトピックスとして出てきていると思うんですけども、そのあたりが、以前の意見でも全体的にちょっと構成がわかりづらいので、今回すごく整理していただいて、私としてはわかりやすくなってるなと思うんですが、ここで業種別が出てしまうと、自分たちのことは信じてもらえないのかと思ってしまう方もいらっしゃるかもしれないので、その辺に手が入るとすんなりいくのではないかと感じたので、発言させていただきました。

委員長＝確かに、17ページの産業別特化係数を見ますと、情報通信業、不動産業、物品賃貸業それから学術研究、専門・技術サービス業のあたりが、かなり鎌倉としての特徴が出ていますので、この辺を(3)のところはどう盛り込んでいくかということですね。

商工課長＝業種別のところなんですけれども、製造業等というところで業種別にはしてませんが、次の施策の方にも絡んでいくような内容になっているわけで、企業誘致の対象としている製造業だとか、あるいは自然科学研究所などを製造業等というところでくくり、それ以外の卸し、小売り、サービスというところは中小企業等というくくりで支援のほうにつなげていくんですが、委員ご指摘のとおり、見方によっては混じっているというようなこともあるかとは思いますが、もう一度表現が適切かどうかというところも含めて施策につなげるような見せ方にはしていきたいと思うので、内容についてはこのままとしたいんですが、わかりやすくするような形で進めたいと考えています。

委員長＝業種別というタイトルはこのままにすれば、製造業等の中に、今製造業のサービス化という大きな流れになってますので、その中に先ほどご指摘のあったような要旨を入れるかということですね。この体系そのものを大きく変えていくというよりも、今の中小企業等の中にも宿泊とか飲食関係も少しは入っておりますので、こういった中に、先ほどおっしゃったような卸し、小売り、サービス業を追加していくっていう考え方もあると思う。全て網羅するのはなかなか難しいところですが、主要なところを追加することではいかがでしょうか。(1)中小企業等、(2)製造業等のほかに、(3)で鎌倉市における産業特化計数なんか見てますと情報通信業とか、宿泊業、飲食サービス業、卸し、小売りもあるんですけど、卸し、小売りは、神奈川県、全国と比べると横並びのような感じがするんですが、その辺のところを少しピックアップしてはいかがでしょうか。

〇〇委員＝(1)の中小企業等っていうタイトルがいけないんじゃないですかね。これを例えば、もっと細かく卸売業、小売業、サービス業についてとか、そういうタイトルにすれば、製造業との内容がわかってくるような気がします。内容的には問題ないと思うんですけど、確かに、最初の中小企業等というのが何か惑わしてしまう。

委員長＝(1)の中小企業等とは全般的なところを書いて、その後、施策で特に重要な製造業等と新産業の集積ということで、後の計画の3本柱の中に、商店街、それから製造業、新産業、伝統工芸というものを筋書きとしていきますので、例えば、卸し、小売り、宿泊、飲食、サービスっていうのはコアの施策につなげていないっていうこともございますので、この辺の表現を少し工夫して、今委員皆さん方からいただいた意見でどうですか。

事務局＝ご意見頂戴してるところなんですけれども、まず中小企業等と製造業等という標題について、中小企業等というのは鎌倉市の一番多い層ですよ。業種別じゃないじゃないかと言われると確かにそうかもしれないけど、業種別のところはテーマ別とか他の表現に変えていきたいというところと、製造業等ということで、あえて製造業を載せているのは、製造業を誘致してきたという経過がこれまでもございまして、計画に書いてあるのはいわゆる大企業みたいな話になるわけなんですけれども、これまでの鎌倉を形成してきた大きな産業、今後はまだ誘致の想定はないのですけれども、基幹産業というようなところを企業立地条例の中である程度、誘致の可能性について触れていきたいというような考えを持ってますので、そこも含めて記載しています。

委員長＝これ歴史も入ってて、鎌倉の産業基盤を形成してきた一つのところです。卸し、小売りのところは、何か柱を立てますか。

事務局＝今個別の課題を拾っていけるほどのデータがないので、なかなかそこまで表現するのは難しいところございまして、そういう意味では、先ほどご指摘いただいているので、業種別というところが合わなければその表現を変えるか、あるいは製造業というところに違和感があれば、鎌倉を形づくってきた産業などの表現に変えるか、どちらかの方法でいきたいと思います。

委員長＝今事務局の案でよろしいですか。

(異議なし)

それでは、そういう方向でお願いします。

今日一番大きな課題になりました見え消し版21ページ、「4 計画の基本的な考え方」のところですね。4番のところの大項目が21ページから27ページにございます。

〇〇委員＝今質問しなきゃいけない肝心なところで、見え消し版の19ページの商店街団体数及び店舗数の推移というグラフがありますね。大体下がっています。例えば、令和4年の1,802という数字のことなんですけど、10ページの業種割合の比較のところ、鎌倉市の事業所数として卸小売業1,751というのが出てきますけれども、基本的にはこの1,751が、ここの店舗数に該当する、近いというふう考えていいですか。

委員長＝事業所というのは、例えば、店舗を2店持っていれば、二つ事業所になりますし、これはどうですかね。

〇〇委員＝重複はしないまでも似た数字で、つまり商店会に入ってほしい業種というのはこの卸売業、小売業、基本的にはこの部分だというふうに考えていいのですか。

事務局＝先ほどの経済センサスの数字ではあるんですけれども、商店街にある店舗というのは卸売業、小売業に限らず様々でございますので、これが分母にはできないなという点と、商店会は地域によって事情が異なり、旧鎌倉は観光という視点が強いんですけれ

ども、住民の生活のための商店会もありますので、それぞれの地域に応じた形で、商店会がそれぞれ力をつけていただきたいというのが、市の考えです。

〇〇委員＝ということは、商店街の振興ということ考えたときに、それほど単純ではないという、つまり卸し、小売りがどうかということよりも鎌倉らしい、あるいは鎌倉の中にある地域に根ざした、そこで不可欠なそのお店といいますか、お店の集団・集合同じなものを考えて、そこの振興をどう図っていくかというふうに考えた方がいいということですね。わかりました。

委員長＝そのほかの取り方でも、経済センサスと商店街の加盟店がちょっとずれる。見え消し版の 21 ページ以降、計画の基本的な考え方の大項目 4 について、26 ページのほうでは「ウィズコロナ、アフターコロナへの対応」というタイトルになっていますので、最初にご質問いただいているところでは、両論併記するような形も考えられます。「働く場の確保」、「働く環境の整備」というのは二つの大きな柱になるということで、それぞれ施策の方も明確になっています。ただウィズコロナ、アフターコロナのところの文面を見ていただくと、なかなか将来が見えないこともありますので、やってきたときの施策の対応にならざるを得ない。ここはやむを得ないかな。委員の皆さん方から、ご意見をいただければ。

〇〇委員＝非常にわかりやすく整理していただいたかなというふうに思っているんですけど、22 ページからずっと文章が続くので、こちらは四つに分かれていて二重下線を引いてもらっているので、それぞれに見出しをつけてつくられたらどうでしょうか。あの、本当に見た目というか、読みやすさのことなんですけども、そういうふうにちょっと整理していただいたほうがいいかなと思います。働く環境の整備のほうも三つに分かれているので、それぞれに小見出しみたいなものをつけて整理された方が見やすいかなと思います。

委員長＝最後に 6 番がありますけれども、主要 KPI も 4 番の計画の考え方の中にも盛り込むと、割とわかりやすいかと思うんですけど、後ろにまとめちゃってるんで、4 番の中に入れるというのも一つかなと思うんですね。そうすると単なる計画ではなくて、きちっとした目標を持って、この計画を実行していきますよというふうなことが明確になるのではないかと思います。その辺も含めてご意見があれば教えていただきたい。

これは事務局にちょっとお伺いしたいんですが、深沢地域整備事業用地のところは 25 ページのところはかなりカットされていますけれども、これは 23 ページの「深沢地域整備事業用地における企業立地」のところを含めたということで、囲みとセットで見ると、読んでいただくということになりますね。25 ページのところは全部削除になっていますが、深沢整備事業用地においては、23 ページの企業立地支援のところは深沢整備事業用地においては、「今後、地域の基幹産業となるようウェルネスにつながる企業の誘致を図ります」の下に、具体的な枠で非常に見やすくしたということによろしいですね。

〇〇委員＝二重アンダーラインになっている部分で、ア 働く場の確保、(1)、(2) とかそういった形で書いた方が確かに見やすく、それに対して KPI が一緒に書いてあった方が、この目的に対してこういう KPI を設定します、それに対してこういう事業をやりますと

いつて後の事業が来ると思いますので、そういった見せ方のほうがすごく見やすくなるなど思っています。そうすると計画自体より見やすくなると思いますので、そういった順番というか、整理をしていただければと思います。あと見せ方ということで、この四角枠囲いの位置づけというんでしょうか、これコラムなのか、それとも参考なのか、トピックなのか、ちょっとそこがわかりづらいなど思って、例えば、神奈川県何とか計画では参考だと思うんですね、参考なら参考って書いて、深沢地区の話とかもしくは鎌倉でテレワーク、たぶんこれはトピック的なものだと思いますので、トピックとかコラムとか、ちょっと読み物的にこういったものがありますっていうご紹介でやっていただけるとすごく見やすくなって、色を変えとか、枠を変えとかはあるかもしれませんが、市民の皆様が見られるときに見やすくなるかなと思ったので、ご参考までに意見とさせていただきます。

〇〇委員＝やはり最終的なこの計画の目標値がはっきりしている方が、どこを目指すということがわかっていいかなと思うので、私も KPI を書いていただきたいと思っています。その中で、見え消し版 38 ページの主要 KPI ですが、こちらはたぶん連動させていくほうがわかりやすい。物によって目標の年次が様々になっているので、何か発表があるときとかがあるかと思うんですが、この計画の中での目標値っていう形であるとわかりやすいと思うんですけれども、物によって令和 7 年だったりいろいろあるので、そのあたりっていうのは、何か意図的にされてる部分があるのでしょうか。

事務局＝この計画は 10 年間の計画で、令和 14 年度の目標値の設定が求められるわけですが、他の計画で使ってる目標値に適当なものがあって、それと同じような取組をこの計画でも行っていきますので、そうすると今の段階で目標の先延ばしをしていくことはなかなか難しいところですので、指標としては設定させていただいて、目標年次が来たら、この委員会で進捗状況を評価し、改めて目標値を設定させていただきたいと考えています。今の段階では、他の計画で公表している数値を目標値にしています。

委員長＝それぞれの施策は他の政策との絡みもありますので、必ずしも全部の年次を合わせる必要はないのではないのかと思います。なるべく見やすいようにということと、それから市が計画を練って、それに向けてやってるということを情報発信していくときに、ある程度そろえた方がいいっていうのはありますけど、他の計画もありますので、とりあえず今出されている 38 ページですね。これを当てはめていただければいいのではないかなと思います。

〇〇委員＝最後はそろっていた方が、最終ゴール、目指すべき姿がよくわかると思うので本当はそろえていったほうがより理想的だけど、同じ行政としては立場がよくわかりますけれども。なので、それはしようがないところはあると思うんですが、この 10 年間の KPI のマイルストーンっていいですか、中間の目標といいですか、そういったものの設定ってやっぱり難しいものなんですか。あの難しいものができるものがあると思うんですけれども、もしマイルストーンがあれば、真ん中で 1 回、目標が急に上がっていくもの、徐々に上がっていくもの、いろいろあると思うんですけれども、設定できるのであればマイルストーンを設定した方がより進捗管理がしやすくなると思うので、ご検討

いただければというふうに思います。

委員長＝モニタリングもされるということなので、もし可能であればそれも入れてもらってもいいですよ。毎年設定するのが難しい部分と、見やすい部分で。どうですかね。

事務局＝年間件数見込みをつくって次の年次目標につなげていくような KPI であれば、マイルストーンもつくれるのですけれども、例えば、4 番の商店街加盟店舗数ですとか、11 番の伝統鎌倉彫の年間出荷額などは、勾配を見て途中の数値を置くしかないものです。

委員長＝あとはいかがでしょうか。〇〇委員は IT 系のところが非常に強いと聞いておりますけど、鎌倉市のウェブ関係とかネットワーク関係で、指摘の点はありますか。

〇〇委員＝予算とか、事業計画とかに関わることなんですが、中小事業者のデジタル化支援という言葉がどこかにあると、この 10 年間でデジタル活性化に取り組む姿勢が出せるとは思いますが、ただ補助金とかの関係で具体案が出てるわけではないので、単語として載せづらいのかなと思っていましたので、指摘しませんでした。

事務局＝今のご指摘については、新しく打ち出しにくいところはあったんですけども、見え消し版 30 ページ、上から二つ目の中小企業等経営基盤強化事業費助成事業は、現時点ですと産業財産権の取得ですとか、展示会等出展、ISO 認証などへの補助金ですが、今後の方向としまして、IT 関連の基盤整備を速やかに充実させていきたいので、補助メニューを拡充してデジタル関連にも対応していきたいと考えています。

委員長＝国にも IT サービス、情報化など、IT 系の補助金は結構あるんですね。ただそれをそのまま鎌倉市に持っていくっていうのは難しいですが、IT 系のところはそういうのを活用すればよいのではないのでしょうか。

4 番のところ非常に関連するのですが、大項目 5 のところに具体的な施策の内容と個別事業がありますので、5 のほうも一緒に見ていただいて。大分修正をしていただいておりますけれども。

私からお聞きしますが、33 ページの「(仮) モザイク型就労支援」とは、具体的に何でしょうか。

事務局＝モザイク型とは時間の分解ということで、コンビニなんかもそうだと思うのですが、例えば、朝の時間帯は、高齢者が働きます、昼間の時間帯は子育て中のお母さんが、子どもが学校に行っている間に働きます、また、夕方の時間帯になると、日中には外出しづらい方が働きますということで、時間的なモザイクですね。また、事務というと、いわゆる事務作業をやる人、経理関係、お金を扱う人など仕事で分けて、1 人ですべて働くのではなく、複数の人で働くということもあります。

委員長＝今の内容は AI じゃなくてもやれるんだけど、AI を入れてるといって何かあるんですかね。鎌倉市の特徴になるんですか。

事務局＝例えば、今いろんなアルバイトとかをスマホで登録するようなことがありますが、細分化した仕事をシステム上に集約して、高齢者とか、女性とか、時間がない方が身近なところで情報を収集できるように、24 時間見れるようなシステムにしていこうと考えています。

〇〇委員＝溶け込み版の最後の方にいろいろな支援が載っているんですが、もう既に終わ

ってしまっているのも載せてありますよね。実績としてはとても参考になるんですけども、今後10年の計画の中に、過去に終わってしまったものが果たして必要なのかどうか。もし載せるのであれば、実施期間を明記して、もう終わってるということがわかるようにするか、実施中であるということを書くとか。たぶんこれだけ見ると、すべてが現在もあって、すごく素晴らしいなっていうふうに感じやすいんですけども、その辺のちょっと誤解を生まないような表記をされたらどうかなというふうに思います。

事務局=終わっている事業というのは、「ウィズコロナ、アフターコロナへの対応」に載せているものかと思います。今回、計画を改めて第2次素案としてまとめた段階で、ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえたものをつくろうということがありまして、実際にやってきたわけですが、今後、また同じような感染症ですとか自然災害ですとか、そういったときに市内の商工事業者が打撃を受けることが想定されるときに、これまでこういう形で対応してきたということを、同じ形でやるかはわかりませんが、備えとして掲載しています。誤解を与えないような表現は考えたいと思います。

委員長=大体施策は3年で見直すことが多いので、名前がどんどん変わっていくんですけど、どこかの時点で一括で書いてもらったほうが、誤解を招かないと思います。

〇〇委員=施策が3年ごとに見直しというのと、計画期間は10年間って書いてあって、施策がいろいろありますけれども、これだけ見ると10年間この施策をやるのかなっていうふうに見えてしまうと、今〇〇委員の話などを聞いて思ったんです。でもそうではなくて、途中で時代に合わせて施策は見直しされていくと思うんですが、特に期間は定めず、(3)計画期間にあるように取り巻く状況に変化があったときに、随時、見直すって感じなんですか。

商工課長=計画期間につきましては、溶け込み版の方でいいますと24ページになりますが、特に(3)計画期間のところ、「商工業を取り巻く状況に変化を生じたときは」というところにとどめております。というのも、これは計画をつくってそのままというわけではなく、年1回、進行管理をこの委員会ですべてさせていただくこともありますので、その中でご審議いただきながら、常に必要かどうかも含めてやっていくということになりますので、3年で決めて見直すとかというわけではなく、毎年度、毎年度、ご意見をいただきながら進めていきたいということでございます。

委員長=あと6番の主要KPIのところを見ていただいて、大項目1から6まで全体を見渡していただいて、何かご意見はありますか。

〇〇委員=先ほど、アンダーラインのところを見出しにしたらいいのではないかとご意見がありましたが、創業支援や中小企業等への経営支援ですが、これを見出しにしたときに、その後の個別事業の方で(1)とかになっているので、見出しの番号もそれぞれ合わせたほうが見やすいんじゃないかなっていう、細かい見出しの問題です。見出しにするのであれば番号の(1)を合わせた方がいいと思います。

委員長=最終の編集のときにお願いします。第3次鎌倉市総合計画が2025年度までになっ
ていて、それを受けた商工業振興計画の間に総合計画の見直しがあるということですね。

〇〇委員=溶け込み版の24ページ、計画期間と推進体制のことですけども、これから10

年間の計画で2023年度からということは、この鎌倉市商工業振興計画推進委員会というのを年度ごとに最低1回は開く。そしてそこには、主要KPIがどう変化したのか、その背景、原因は何かというのが、一定のその自己評価みたいなものが報告されて、それでいいとか、悪いとか、違うんじゃないかとか、というような審議を行うというイメージでよろしいですか。

商工課長＝今後、計画策定後は、年1回おそらく決算が終わった秋ごろの開催を考えています。KPIに対してということになります。先ほどの意見にもあったようにKPIが1年で数値を上げられないものがあったりするので、全部が全部できるかどうかわからないですけれども、できるところについてはKPIを使って審議していただく、ご意見をいただくというものもあれば、そのころには決算を出してるので、それぞれ事業の件数というのが出ています。そこから、事業の状況を見てアウトカムがあるのかなのか、そういった状況も含めて施策を考え直した方がいいんじゃないかといった話も出てくると思いますので、そのようなご意見を踏まえて、計画を見直していく必要があると考えています。

委員長＝予算計上と予算編成ですよね。予算編成も、おそらく計画の見直し、計画の実効性の確認と関連してくると思いますので、商工業振興計画推進委員会で良かったとか、悪かったとかというのも予算編成を絡めてやっていかないと。たぶんそういうスケジュールでやっていくんだと思います。

大体よろしいでしょうか。今事務局の方からご提案いただいて、8月22日の委員会のご意見により修正して、今日もいろいろなご意見をいただき、それも含めて最終的な計画案をつくっていききたいということで、計画だけでなく当然このアクションプランもつくっていかなくちゃならないだろうと思います。

それでは、今回ご意見をいただきましたけれども、こちらのほうの修正等を進めたいと思いますので、とりあえず大項目1から6はよろしいでしょうか。なければ、今日のご意見を踏まえて、事務局に進めていただきたいと思います。

以上で、議題1を終わります。

議題2 その他

議題2「その他」について、事務局から何かありますか。

事務局＝本日資料3として配布した資料は、本市の企業誘致に係る支援策のリーフレットで、資料4、5は本委員会設置に係る条例及び規則となりますので、ご査収いただければ幸いです。

続いて、今後の流れについてご説明いたします。第3次素案に対するご意見につきまして、先ほど申し上げましたが、11月11日（金）までに、メールまたは郵送にて頂戴できればと思います。メールでやりとりさせていただいている方にはメールで、後ほど様式をお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。その後、11月25日（金）までに計画案を修正し、その内容をもって鎌倉市議会への報告後、12月～1月にかけて1カ月間、パブリックコメント及び庁内関連課への照会を実施します。パブリックコメント

実施後、必要な修正を施し、作成した最終案を2月の推進委員会でご確認いただき、答申文案を作成。その後庁内会議を経て、3月に計画策定を予定しています。2月の推進委員会は初旬の開催を予定しております。日程については、あらためて調整させていただきます。

また、本委員会については、商工業振興計画の進行管理のため、次年度も引き続き開催し、皆様のご意見等頂戴したいと考えておりますので、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

また、前回、第4回推進委員会の議事録について、現状いただいているもののほかに修正箇所がなければ内容を確定し、市ホームページにて公開いたしますので、ご承知おきください。

事務局からは以上です。

委員長＝委員の方々から何かありますでしょうか。

それでは、これにて委員会を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。

最後に、令和5年2月の第6回委員会の開催予定日については、2月初旬に開催することを確認し、日時、場所については、事務局から追ってお知らせすることを確認した。

以上